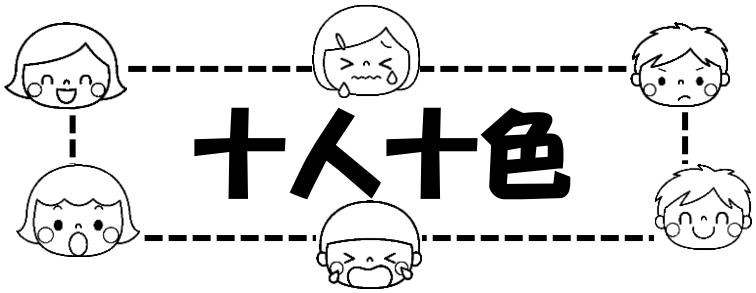

十人十色

2021・7・12(月)
縄瀬　保育園
池之上　俊江
NO．７

子どもが好む『A・K・U』の遊び

子ども達の遊びを見ていると、この３つをせずにはいられない程、長い時間遊びます。このアルファベットはA「あぶない」　K「きたない」　U「うるさい」を意味します。つまり「悪」なのです。だからA・K・Uの子どもに対して注意を与えない親は「しつけができない親だ」というレッテルが簡単にはられてしまうのです。子ども時代に、全身泥にまみれたり、水をかぶったりという遊びを沢山体験してほしいです。ある本の中に公園や遊び場で子どもを見ていると、子どもに対して大人が注意し、とがめる姿のほうが気になる「最近の子どもは遊べ(遊ば)ない」。それは大人が遊びを奪い、「子ども時代」を奪っているのかもしれない。子どもの「あぶない」「きたない」「うるさい」を許容する環境が大切だ。とありました。社協３園は、この遊びを保育園時代に充分楽しんでほしいと願っています。プールに入って思いっきり足をばたつかせ大きな声で楽しいと叫び楽しむ子、たらいに入って温泉のようにつかり静かに楽しむ子、それぞれです。寒くなれば、太陽の下に寝転び、砂まみれになったり、砂場で山作りが盛り上がったり、体をフルに使って遊んでいます。この時間が子ども達にとって「快」の時間であり、幼少時代の楽しい記憶となっていくのです。その中にはルールもあります。危険な遊びを全て許容しているわけではありません。水はたらいに入った少量でも命を落とす危険があります。プールは大人が近くにいる時にはいること。職員もプールに子どもがいる時は近くで見守ります。刃物(はさみ)を使用する場所も決まっています。砂場で鋭いスコップを使う時は、足を切る危険を防ぐ為、靴をはきます。自己選択の遊びの中でも秩序があります。それを意識して子どもながらに保育園という小さな社会の中で、遊び、学んでいるのです。ひまわり組は、毎日の「ドキュメンテーション」、すみれ組は日々の生活ノートへ子ども達の学びを記載しています。数分の一コマですが、子ども達の葛藤、挑戦、悔しさ、と様々な思いが伝わります。ドキュメンテーションは、縄瀬保育園ホームページにも毎日更新しているので、園でじっくり読めなかったという方はそちらもご覧ください。子どもは、大人が思っている以上に遊びの中で、日々考え、成長しているのです。私たちは、子どもを見守る際、「〇〇したらどう？」「〇〇してきて！」という言葉掛けを控えるようにしています。それは自分自身で考える場面をより多く経験してほしいからです。自分で考える力が育つと、回りに目が向きます。縄瀬の子は、泣いている友だちがいたら「どうして泣いているの？」と寄り添えます。トラブルがあれば仲介に入って自分たちで解決しようとします。これこそ「生きる力」だと思います。

夏の遊び

夏はやっぱり「水」や「泥」の感触が気持ちよい季節ではないでしょうか？水や泥の感触を毎日楽しみます。上記で述べたように「きたない」遊びを好むのが子どもです。泥まみれになって、絵の具まみれになって遊ぶ子ども達は輝いています。着替えの前に担任が服を下洗いしていますが、粒子の細かい砂や絵の具がおちきれてない日もあるかと思います。お手数ですが、家庭でもポケットの中や汚れの確認をお願い致します。また、「縄瀬保育園は、汚れてもいい服で遊ぶんだよね」と子ども達も口々に話しています。その通りです。お気に入りの服はお休みの日に着て下さると助かります。水泳帽子の準備も本当にありがとうございます。嬉しそうにかぶってプール遊びや水遊びを楽しんでいます。また替えの帽子と２つ帽子を準備して登園する子どもさんもいます。皆さんそれぞれ工夫してくださりありがとうございます。ある日、「汚れなんて気にしないでいい！汚れて遊ぶのが子どもですよね。」と話されるお母さんがいました。そうなんです。泥んこまみれになって遊んだ後の子ども達は「楽しかった～」その一言に遊び切った思いがこもっています。保護者の皆様の御理解、御協力がありこの保育ができる事に感謝ばかりです。